

## クリニカルラダー段階別到達目標 【役割・看護・教育】

	レベル I A	レベル I B	レベル II	レベル III	レベル IV	レベル S	レベル M		レベル TM
	新卒 新人 1 年 目	既卒 精神科 1 年目				専門・認定看 護師 及び準ずる者	副師長	師長	部長 副部長
到達 目標	指導を受けながら、自立に向けた技術の習得ができる。	助言を受けながら、精神科技術において、自立に向けた技術の習得ができる。	自立・自律的な看護業務が遂行できる。	専門領域において役割モデルになることができる。	チームメンバーの方向付けや後輩の育成及び部署の目標達成に向けた自己役割の遂行ができる。	修得した専門知識、技術を発揮し、専門分野において院内外の医療、看護の質の向上と教育ができる。	看護実践のリーダーとして現任教育の中心的役割を担う。師長を補佐しスタッフとのパイプ役となる。	病院運営の動向をふまえた行動を起こし、看護単位でマネジメントができる。	看護部内の理念及び目標を達成するために部内の管理者としての責務を果たす。
役割 遂行	○岡本台病院の理念・目標を理解できる。 ○変則勤務の看護業務に応じた生活時間及び体調を整えることができる。	○チームリーダーの役割を理解し、メンバーシップを発揮することができる。 ○看護チームの一員として自覚を持ち、責任ある行動がとれる。 ○看護部委員会の委員を担うことができる。	○チームリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮することができる。 ○臨地実習指導者の役割を理解し、指導を行うことができる。 ○精神科看護の専門性を高めるために自己研鑽できる。 ○看護部委員会の委員を担うことができる。	○チームリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮することができる。 ○あらかゆる場面でリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮することができる。 ○看護部委員会の委員を担うことができる。	○看護部の目標達成のために、病棟全体の看護の質の向上に貢献できる。 ○あらゆる場面でリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮することができる。 ○看護部委員会の委員を担うことができる。	○専門分野の看護について、実践モデルとなれる。 ○専門分野の看護へ進むための動機づけができる。	○院内・看護部内の委員会活動で役割を果たせる。 ○師長代行ができる。	○質の高い看護実践のできる人材を育成する。 ○病院倫理に基づき、経営に参画する。	○質の高い看護管理者を育成する。 ○患者満足度の看護が提供できる看護部作りを行う。

<p>看護 実践</p>	<p>○基本的な看護実践（看護技術・看護の展開）ができる。 ○指導を受けながら、精神科の知識・技術を習得できる。</p>	<p>○日常的に必要なとされる看護業務をほぼ単独で実施できる。 ○支援を受けながら、個別性を考えた受け持ち患者の看護が実践できる。</p>	<p>○自らの判断で、個別性を考えた受け持ち患者の看護実践ができ、役割モデルがとれる。 ○研修を看護実践に生かすことができる。</p>	<p>○論理的かつ実践的知識を統合して、卓越した看護を実践できる。</p>	<p>○専門分野における知識と技術を活用し、看護の質の向上に貢献できる。</p>	<p>○部署の看護体制の運営を円滑に行うためにスタッフの役割行動がとれるよう指導できる。</p>	<p>○部署の看護体制の運営を円滑に行うために、人的・物的環境を整えることができる。</p>	<p>○組織を活かす看護マネジメントの実践ができる。</p>
<p>教育 研究</p>	<p>○研修に主体的に参加し、学習を継続することができる。</p>	<p>○自ら研修に参加し、基礎知識を深めることができる。 ○看護研究について関心を持ち、学習することができる。 ○新人指導を行うことができる。</p>	<p>○テーマを持ち看護研究に取り組むことができる。 ○プリセプターの役割を理解し、新人指導を行うことができる。</p>	<p>○単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。 ○臨地実習の受け入れ体制を調整し、学生指導ができる。 ○教育計画の企画・実施・評価に関する助言や指導ができる。 ○プリセプターの役割を持つ後輩に対して、指導・助言ができる。</p>	<p>○自己研鑽をほかり、専門分野において病院内外での教育が実施できる。 ○研究活動においてコンサルテーションができる。</p>	<p>○自己を把握し、自己研鑽に取り組む。 ○スタッフ個々に合った関わりができる。 ○スタッフの研究活動を支援し、研究成果を業務に反映できる。</p>	<p>○マネジメントを評価して自己研鑽できる。 ○研究活動が活発になるような職場風土を作ることができる。</p>	<p>○看護職員のキャリア開発、自己実現を支援するための環境を整えることができる。 ○研究活動を奨励できるようなマネジメントができる。</p>